

「大阪中心部における5～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」
第3回研究会

1. 佐藤健太郎 氏（関西大学博物館）
「淀川から三国川開削とその前後」
2. 川内眷三 氏（元四天王寺大学）
「和氣清麻呂の河内川開削のルートとその意義」
3. 質疑・討論

日 時：2019年12月22日（日） 13時30分～16時50分（受付13時～）

場 所：大阪歴史博物館4階第1研修室（大阪市中央区大手前4-1-32 TEL. 06-6946-5728）

参加費：無料（定員60名）※申込不要：当日直接会場にお越しください

問合せ：（一財）大阪市文化財協会（TEL. 06-6943-6833）



本研究会は、科学研究費助成事業基盤研究(C)「大阪中心部における5～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」(2019-22年 代表:南秀雄)の一環で行うもので、共同研究「古墳時代における都市化の実証的比較研究—大阪上町台地・博多湾岸・奈良盆地」(2016-18年)の一部を継承しています。

淀川・大和川河口部の低地帯に位置する大阪は、治水なくして、都市的発展はあり得ませんでした。治水・利水の歴史は、日本書紀の仁徳天皇条の「難波堀江」以降、20世紀の新淀川開削へとつづき、現代の街のあちこちに、その姿をとどめています。また、近年、大阪市内では治水・水防関連の遺構が発掘され始めています。本研究は、文献史の研究が及びにくい17世紀までを主な対象に、急速に進んでいる精緻な古地形復元を活かし、考古学・地質学・堆積学・河川工学などの共同で、大阪の治水・水防の実態と、都市形成との関連について明らかにすることを目指しています。

今回は、摂津市史に取り組んでおられる古代史の佐藤健太郎氏と、歴史地理学の川内眷三氏に、奈良時代末の淀川・大和川の二大河川に対する治水事業についてお話しいたします。三国川開削は、淀川の治水・利水の画期として以降の歴史に大きな影響を与えました。また、和氣清麻呂の河内川開削は、川内氏の研究などにより実態が明らかされてきており、頓挫したとはいえ、江戸時代の大和川開削に再生します。

広く、関心のある皆様のご参加を歓迎します。